

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社ポプラサポート	代表者	大谷 有紀	法人・事業所の特徴	通所、訪問、宿泊の支援をケアプランに沿って柔軟に組み合わせて、利用していただいています。慣れ親しんだ地域で通いを中心に暮らしていける応援をしています。
事業所名	小規模多機能型ぼぷら	管理者	小室喜久枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	1人	1人	人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員の内部研修や外部研修に力を注ぎ、ケアの質を向上するとともに職員が意見を言いやすい職場環境作りに努めたい。	研修は参加できなくてもDVDや資料を確認し、研修報告書を提出している。毎月のケース会議で意見を出し合える環境を作っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの質の向上のために外部研修などは大変役に立っている。ケース会議や担当者会議で、自分の担当者について話すことにより、責任感がより強くなっている。 ・スタッフが全員参加しているかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持するとともに、2年経過するので業務改善と積極的な研修会への参加を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	看板を見やすい所に設置することを検討し、今後も施錠することなく来所しやすい雰囲気をつくっていく。	看板を見やすい位置に設置は、事業所としては今のところ設置予定なし。施錠は夜間玄関のみ。居室やその他の施設内のドアは施錠しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が来所しているのはわかるが、地域住民が来ているかは不明。 ・アルコール臭、尿臭などが全くなくて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ来客があっても恥ずかしくないような環境づくり、掃除、整理整頓を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	開かれた施設を目指し、行事やイベント活動を企画し、地域と共に参加できるよう、今後も取り組んでいきます。	地域交流会、運動会、歌謡ショーなどのイベントに地域住民を呼んだりしているので、改善している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方がどこまでぼぷらを知っているかは不明である。 ・家族からはスタッフがどのように地域に参加しているかは見えてこない。 ・気軽に話しかけられる雰囲気のスタッフが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店の方々に食事の提供をお手伝いしていただくよう依頼し、地域資源の活用をしていく。 ・地域とのかかわりのため近隣の小学校・幼稚園に利用者の作成した雑巾の寄付を行い、事業所のことを幅広い世代の方に知ってもらうようにする。 ・上三川町のイベントへの参加。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域活動に参加はしているが、協力は行なえていない状況である。利用者と一緒にできる事を検討していく。	利用者とともに雑巾を作成し、小学校、幼稚園に寄付している。	<ul style="list-style-type: none"> ・近所というよりも町全体に対して広い範囲に目を向けてほしい。 ・近所の独居の人への声掛けをしてみてもどうか。近所の人の状況や声が入りやすいのではないか。 ・近所の独居の人の情報が全く分からない。情報を共有することはできないのか？⇒現在は出来ない。民生委員から情報を得ることがいいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員会にスタッフが参加できる機会をつくり、直接地域の方と接する場を設け実施内容を理解できるようにする。 ・民生委員を把握し、積極的な交流を図る。運営推進委員会へ参加して頂く。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の中での会議や集まりに積極的に参加し、事業所の活動内容を広報誌等で伝えていく。	広報誌の発行はしていないが、日々の活動は家族へ送付している。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議などに参加していただいているのでどんなことが行われているのか運営推進会議の場で報告を行ってほしい。 ・北小学区内の地域社協と相談事を話す機会があるといい。今後連携を取ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より民生委員、スタッフも参加となるので、事業所以外の方からの意見を受け入れ、地域や家族との連携を取っていきたい。 ・昨年同様、茶話会などを継続して実施していく。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の避難訓練だけでなく、緊急時の訓練も年2回行うよう計画を立て、運営推進会議でも防災計画を案内していく。	避難訓練、緊急時訓練を実施。運営推進委員会でも報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の独居の人などは災害時に安否確認をした方がいいのでは？ ・2～3日は持ちこたえられるような備蓄はあるのか？⇒あります。 ・周りと関わって、近所の人を知っておいた方が災害時はいい。 ・民生委員の人との連携が一番いいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時訓練は1度実施したものの、基本的な事をしっかり学んだ方が良いという意見もあった。消防署に来ていただいて再度普通救命講習を受講し、AEDの操作や正しい蘇生術を学び、緊急時にあわてず救命処置や搬送依頼ができるような技術を身につけていきます。 ・災害時マニュアルの再確認。 ・災害時は登録利用者の安否確認を行います。